

恋人の聖地に光の道

内灘町観光協会

総合公園にLED487個

内灘町観光協会は2日、「恋人の聖地」の拠点に位置付ける町総合公園「見晴らし台」の通路と階段に発光ダイオード（LED）ライト487個を設置した。これまで整備した

「幸せへの鐘」「恋みくじハウス」と合わせ、幻想的な演出でカップルを迎え、誘客やにぎわい創出を図る。

LEDライトは筒形で、直径6・3センチ、高さ13・6センチ。太陽電池



淡く照らされた「見晴らし台」の通路を歩き初める川向さん夫婦
＝内灘町総合公園

式で日没後に自動的に点灯し、最長8時間程度発光する。夜間になると暗かったため、新たな魅力づくりの一環として整備した。事業費は約50万円。

お披露目式では、2年前の内灘町民夏まつり「花火の祭典」（本社後援）でハート形の花火を打ち上げる企画に参加した金沢市三口町の会社員川向幸彦さん（32）、亜希子さん（27）が招かれた。

今年3月に結婚した川向さん夫婦は、町コミュニティバスのキャラクター「ウッチー」「ナディイ」が見守る中、淡く照らされた通路を歩き初めし、丸岡健二町観光協会会長、川口克則町長が出迎えた。ライトの設置は来年1月上旬までの予定。来年以降は毎年4月下旬に設置する。